

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月8日
【四半期会計期間】	第91期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	日本鑄造株式会社
【英訳名】	NIPPON CHUZO K. K.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩波 秀樹
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市川崎区白石町2番1号
【電話番号】	044(322)3751（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 阿部 俊彦
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市川崎区白石町2番1号
【電話番号】	044(322)3751（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 阿部 俊彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第3四半期 連結累計期間	第91期 第3四半期 連結累計期間	第90期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (百万円)	10,441	8,365	14,152
経常利益 (百万円)	125	246	291
四半期純利益 又は当期純損失 () (百万円)	17	122	5
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	323	106	345
純資産額 (百万円)	9,172	10,246	9,195
総資産額 (百万円)	18,250	18,423	18,237
1株当たり 四半期純利益金額 又は1株当たり 当期純損失金額 () (円)	0.41	2.57	0.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	50.26	55.62	50.42

回次	第90期 第3四半期 連結会計期間	第91期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 () (円)	0.26	1.18

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税)は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取りまく日本経済の環境は、東日本大震災の影響による停滞を脱し回復の途上にあるものの、円高や欧州債務危機を背景にした金融市場の動揺、中国経済の変調等、海外経済の減速で依然先行き不透明な状況にあります。設備投資についても底堅さを維持しているものの、力強さに欠ける状況が続いております。

こうした環境下において、鋳鋼・鋳鉄品については受注は前年同四半期に比べ5.6%の減少、売上高につきましても前年同四半期に比べ4.0%の減少となりました。一方、公共投資関連に関しましては厳しい市場環境が続いており、受注は前年同四半期と比べほぼ横ばい、売上高は大型物件等により前年同四半期比9.8%増となりました。

しかし、錫再生事業の移管による売上高の減少があり、グループ全体としての連結売上高は8,365百万円と前年同四半期比19.9%の減収となりました。経常利益においては、鋳鋼・鋳鉄品では建設機械向けの売上高の伸びが寄与し、公共投資関連では大型物件による売上高の伸び、資材・外注費低減等により利益を確保し、246百万円と前年同四半期比95.8%の増益となりました。また、特別損益として製品補償損失引当金戻入額とPCB処理引当金の追加計上があり、四半期純利益は法人税等改正の影響のあった前年同四半期に比べ、613.3%増の122百万円となりました。

(2) 財政状態

総資産は営業債権が減少したものの、現金及び預金が増加したことから、前連結会計年度末に比べ185百万円増加し、18,423百万円となりました。負債は営業債務及び借入金の減少により8,176百万円となりました。また純資産は配当金の支払いがあったものの、四半期純利益及び日立建機株式会社に対する第三者割当増資により10,246百万円に増加し、自己資本比率は55.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、37百万円であります。
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	51,351,500	51,351,500	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式。 なお、単元株式数は1,000株で あります。
計	51,351,500	51,351,500		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		51,351,500		2,627		524

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。 なお、単元株式数は1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,252,000	51,252	同上
単元未満株式	普通株式 72,500		
発行済株式総数	51,351,500		
総株主の議決権		51,252	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が7,000株(議決権7個)含まれております。
 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式323株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本鑄造株式会社	川崎市川崎区白石町2番1号	27,000		27,000	0.1
計		27,000		27,000	0.1

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	201	699
受取手形及び売掛金	1 5,748	1 4,642
製品及び仕掛品	1,529	2,090
原材料及び貯蔵品	668	677
その他	204	121
貸倒引当金	23	20
流動資産合計	8,328	8,210
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,135	7,135
その他(純額)	1,887	2,078
有形固定資産合計	9,022	9,213
無形固定資産		
	36	47
投資その他の資産		
その他	849	974
貸倒引当金	0	23
投資その他の資産合計	849	951
固定資産合計	9,909	10,212
資産合計	18,237	18,423

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 3,337	1 2,929
短期借入金	919	441
未払法人税等	10	84
賞与引当金	150	77
製品補償損失引当金	160	-
その他	1 479	1 606
流動負債合計	5,057	4,139
固定負債		
長期借入金	453	224
再評価に係る繰延税金負債	2,491	2,491
退職給付引当金	923	1,013
役員退職慰労引当金	36	47
PCB処理引当金	65	235
その他	16	25
固定負債合計	3,984	4,037
負債合計	9,042	8,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,102	2,627
資本剰余金	-	524
利益剰余金	2,693	2,710
自己株式	3	3
株主資本合計	4,792	5,859
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	59
土地再評価差額金	4,327	4,327
その他の包括利益累計額合計	4,402	4,386
純資産合計	9,195	10,246
負債純資産合計	18,237	18,423

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 3 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)
売上高	10,441	8,365
売上原価	9,592	7,382
売上総利益	849	983
販売費及び一般管理費	736	753
営業利益	113	229
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	13	9
持分法による投資利益	11	4
その他	4	10
営業外収益合計	30	24
営業外費用		
支払利息	12	7
その他	5	0
営業外費用合計	17	8
経常利益	125	246
特別利益		
製品補償損失引当金戻入額	-	160
特別利益合計	-	160
特別損失		
固定資産除売却損	1	18
PCB処理引当金繰入額	-	170
特別損失合計	1	188
税金等調整前四半期純利益	124	217
法人税、住民税及び事業税	12	84
法人税等調整額	94	11
法人税等合計	106	95
少数株主損益調整前四半期純利益	17	122
少数株主利益	-	-
四半期純利益	17	122

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	17	122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	16
土地再評価差額金	329	-
その他の包括利益合計	306	16
四半期包括利益	323	106
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	323	106
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。
なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	127百万円	113百万円
支払手形	50 "	37 "
流動負債 その他 (設備関係支払手形)	2 "	9 "

2 保証債務

下記関係会社の借入金に対し保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
新東北メタル㈱	60百万円	52百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	290百万円	200百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月17日 定時株主総会	普通株式	105	2.5	平成23年3月31日	平成23年6月20日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月15日 定時株主総会	普通株式	105	2.5	平成24年3月31日	平成24年6月18日	利益剰余金

2 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成24年7月2日付で、日立建機株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が524百万円、資本剰余金が524百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,627百万円、資本剰余金が524百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「鑄造関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	0円41銭	2円57銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	17	122
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	17	122
普通株式の期中平均株式数 (株)	42,033,287	47,607,689

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

日本鑄造株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中村 裕輔 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	芝山 喜久 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西野 尚弥 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本鑄造株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本鑄造株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていない。